

第2回門真市子ども読書活動推進計画審議会

平成27年2月25日(水)
午前10時～11時45分

議事録

会場 門真市立図書館2階会議室

出席 神村委員長、川崎副委員、乾委員、脊戸委員、
東田委員、上甲委員、牧菌委員、山委員

柴田生涯学習部長、山田生涯学習部次長、
西中館長、秋月、三野

事務局 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
それでは、第2回門真市子ども読書活動推進計画審議会を始めさせていただきます。本日は、委員の方々8名にご出席いただきまして、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第5条第2項において過半数に達しており、会議が成立していることをご報告いたします。
それでは開催にあたりまして、館長よりひとつご挨拶をお願いいたします。

館長 皆さん、おはようございます。年度末で公私ご多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。
第1回の審議会で子どもの読書に関するアンケートにつきましてご審議いただき、昨年12月には市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校のご協力のもと、アンケート調査を滞りなく終えることができました。本日は、そのアンケート調査の結果についてのご報告と皆さまからのご意見をいただきたいと思っております。短い時間ではございますが、よろしく願いいたします。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

事務局 それでは、案件に入っていきたいと思いますが、その前に資料の確認をさせていただきます。
お手元の資料をご確認をお願いします。

次第

- 資料1 「門真市子ども読書活動推進計画審議会委員名簿」
- 資料2 「子どもの読書活動に関するアンケート調査結果」
- 資料3 「第1次門真市子ども読書活動推進計画の検証」
- 資料4 「第2次門真市子ども読書活動推進計画スケジュール」
- 資料5 「第2次門真市子ども読書活動推進計画（案）」
- 資料6 「図書館年報2014」

以上7点です。

不備はございませんでしょうか。

それでは委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。神村委員長、よろしく願いいたします。

委員長 よろしく願いします。
では、案件1に入ります。皆さま方にご協力いただき、アンケートを実施していただきました。アンケート調査について事務局からご説明をいただきたいと思っております。よろしく願いします。

事務局 はい。
資料2「子どもの読書活動に関するアンケート調査結果」をご覧ください。今回アンケート調査を実施いたしました。最終的に、回収率といたしまして一覧表を

載せていますが、まとめまして、5歳児の保護者につきましては回収率57%、小学2年生は99.5%、5年生は97.9%、中学2年生は97.7%、高校生は98.4%という結果になりました。

続きまして、アンケート内容につきまして、グラフにまとめたものが2ページ以降にありますので、そちらの結果についてご報告させていただきます。

2ページをご覧ください。小学生、中学生、高校生の子どもたちについて取らせていただいたアンケートをまとめてグラフにしております。それぞれ、問1、2、3と順番に質問項目を書いておりますが、小学生につきましてはもう少し子ども向けの表現にしておりましたが、今回はまとめということなので、中学生と高校生向けに書かれた文章で問いの文章を書いております。

では、問1から順番に結果のご報告をさせていただきます。

問1「読書は好きですか」の結果ですが、グラフを見ていただくとおり、グラフの赤い色と黄緑色のところが、おおむね、子どもたちが読書が「好き」と捉えていいところだと思います。やはり年齢が上がるにつれて、読書が「好き」というのは減少する傾向にあります。一方、「どちらかという嫌い」または「嫌い」というのを合わせた割合は、年齢が上がるにつれて増加する傾向にありました。

続きまして、問2「1日の読書時間はどのくらいですか」というので、問3は、1日ではなく、「月に何冊くらい本を読みますか」ということで問いを作っております。こちらを併せてご説明させていただきます。こちらの表で注目していただきたいのは、問2につきましては、1日のうち「全く読まない」という、グラフでいうと水色のところで、問3につきましては、オレンジ色の「0冊」というところが注目していただきたいところです。こちらは不読率と表現されることもありますが、読書をしない子どもの割合が、小学生から中学生になるにつれて大幅にアップしています。問3の「月に何冊くらい読みますか」というところで、「10冊以上」と答えているのが、小学2年生ではとても多いですが、中学生、高校生は2.6%、4.2%ととても少なくなっています。小さい子であれば絵本や簡単な読み物になるので、一概に冊数で判断できないということがありますので、その場合、問2の「1日の読書時間」というところで見えていただければいいと思いますが、ここで見ていただいても、小学生と中高生を比べてみても読書時間が取れているのは小学生のほうがかなと思われまます。ここでの結論としては、年齢が上がるにつれて不読者が増えるということだと思います。

続きまして、3ページの間4を見ていただきましたら、先ほどの理由がおよそ分かるかと思えます。主に本を読まない理由として、「読みたいと思わない」という答えと、「習い事やクラブで忙しい」、「他にやりたいことがある」という回答が多くありました。最近子どもたちも勉強などで忙しいということも影響しているのではないかと思います。ただ、この間4の項目として、「他にやりたいことがある」というのがありますが、こちらのほうは漠然としていてこの回答までは導き出せていませんが、4ページにめくっていただいて、問5で「本を読まな

い理由として携帯電話やスマートフォン、ゲーム機等の利用により読書時間が減るなどの影響が出ていると思いますか」と質問しておりますが、これが、「他にやりたいことがある」の中の一つと捉えてもいいのではないかと思うような結果が出ております。特に、中高生につきましては、50パーセントにはいきませんが、半数に近い方が影響が出ている、「はい」ということで結果が出ております。小学2年生につきましては、まだ、携帯電話やスマートフォンの所持率がひよっとしたら低いのではないかと考えているのですが、そのためか、影響が出ていない、または「分からない」という回答が多くなっております。

続きまして、5ページの間6に移ります。「小さい時、誰かに本を読んでもらいましたか」という問いですが、多くの方が、「父母」「先生」に読んでもらったことがあると回答しております。一方、読んでもらったことがない人というのもおありまして、小学生、中学生では6.8%、6.4%など、7パーセント弱、高校生では13.9%という結果になっております。読んでもらったことがない方が少なくともいるということは、今後改善していくことが必要だと思います。

問7と、次のページの間8をまとめてご説明させていただきます。こちらのグラフを見て分かる傾向としまして、自宅で読むことが多いというのが共通していることであるのと、もう1点、小学生につきましては、「学校図書室・学級文庫」、問8におきましてもよく本を読む場所として「教室や学校図書室」というように、学校が身近な施設であるということがこの結果から分かりました。中学生、高校生になるとその傾向は薄れまして、市立図書館などに比べては学校で本を読むということが多いですが、小学生に比べると、中学生、高校生は学校で本を読む、学校の本を読むということが少なくなっております。

続きまして、問10の「公共図書館にどのくらいいきますか」という問いですが、小学2年生では約半数の人が行きます。小学5年生は、約6割の方が図書館に行くという結果が出ております。中高生になりますと、「行かない」の割合が過半数を超えてくる結果となっております。

続きまして、7ページの間11をご覧ください。こちらは、先ほどの問いで、図書館に「月に1回以上」「2・3ヶ月に1回程度」「半年に1回程度」「年に1回程度」行くと答えた方に向けての質問となっております。どのようなときに図書館を利用するのかということですが、傾向として共通することとしては、「本を読んだり借りたりするとき」ということが多く挙がっております。学年が上がるにつれて「宿題などの勉強をするとき」という回答が多くなっております。

続きまして問12ですが、こちらは、問10で「図書館に行かない」と答えた方に向けての質問となっております。こちらの回答としましては、全体的に行かない理由としては「時間がない」という回答が多くみられました。また小学生の特徴としましては、「場所が分からない」「本は学校で借りる」という答えが多くなっております。小学5年生以上になりますと、「本は買って読む」という割合

も高くなってきます。中高生につきましては、市立図書館に「読みたい本がない」という回答も目立って多くなっております。こちらの「読みたい本がない」というのが、先ほどの問11で、中学生、高校生が本を読んだり借りたりするときの割合が小学生に比べて10パーセントほど低くなっているというのも、この問12で「読みたい本がない」という結果が出ているのも、その理由なのではないかと思えます。

続きまして、8ページをめくっていただきます。問13「公共図書館の行事に参加したことがありますか」です。こちらの回答としましてグラフを見ていただくと分かる通り、「ない」という回答がかなり多くなっております。現在小学生向けや幼児向けの行事がほとんどですが、それであっても、小学生で行事に参加したことがあるのは約1割と、たいへん低い数字となっております。年齢が上がると、やはりさらに減少傾向にあります。

問14の「どんな行事なら参加してみたいですか」ということで、これはすべての子どもに回答をいただきました。結果としましては「映画会」がもっとも多くなっており、小学2年生につきましては、半数が「手づくりあそび」を挙げております。中学生、高校生につきましては、選択式ではなく自由記述で回答を求めておまして、今回お渡しできる状態でまとめができていないのですが、回答を拾った結果、自由記述の例で「映画会」と書いてあったことも影響すると思うのですが、「映画会」という回答が多くなっておりました。こちらの結果は、第2次計画策定におきまして参考にできたらと思っております。

続きまして9ページの「学校図書室の利用について」は、グラフを見ていただくと分かりますとおり、青色のグラフより左側が学校図書室を利用する割合となっております。見てのとおり、小学生につきましては9割以上が月に1回以上学校図書室を利用しております。中高生につきましては、利用回数0、このオレンジ色の部分が半数以上となっており、たいへん差が開く結果となっております。問16「学校図書室の本を月に何冊ぐらい借りますか」ということですが、こちらも先ほどの回答結果と似ておまして、小学生では9割以上が月1冊以上借りておりますが、中高生になりますと7割が月に1冊も借りないという状況となっております。

10ページも学校図書室の関係ですが、問17「学校図書室に読みたい本はありますか」と問いましたところ、学年が上がるにつれまして読みたい本が「ある」という回答が減っていく傾向にあります。特に中学生、高校生につきましては、「ない」という回答が、すみません、中学2年生のグラフの%がおかしくなっており不備がありますが、6割の方が読みたい本が「ない」という回答になっておりました。

続きまして、電子書籍の利用についてですが、こちらは中学生、高校生にのみ問いを設けております。問18「携帯電話やスマートフォン、タブレット等で電子

書籍を利用したことがありますか」と質問したところ、「ある」と回答をいただいたのが約半数となっております。問19では「ある」と答えた方にのみ質問しましたが、月何冊ぐらい読むかということで、電子書籍を読んだことがある人のうち半数以上が月に1冊以上の電子書籍を読むという結果となっております。最初、3ページのとくに、問2、問3で読書時間と、月に何冊ぐらい本を読みますかということで回答をいただいたときは「全く読まない」という回答が中高生につきましては特に多いというのが目立ちましたが、こちらの問19においては月1冊以上は電子書籍であれば読むという回答結果が出ておりまして、電子書籍というのが身近になっているということが分かります。

問20は、電子書籍を利用している方にのみ質問したもので、「どんな種類のものを読みますか」という問いです。「小説」という答えが半数以上ありまして、中学生につきましては「漫画」の利用が「小説」を上回っております。今回は「漫画」というのが入っているので、先ほど、月に1冊以上読むという結果が出てしまったのかなとも思われます。

一気に言う形になってしまっただけで申し訳ありませんが、続きまして12ページの保護者の分につきましても説明させていただきます。

問1「子どもに読み聞かせをすることは大切だと思いますか」ということで、「思う」と回答された保護者が98%、大半の保護者の方が読み聞かせの重要性を認識しているということが分かりました。

問2におきましては、実際に家庭で読み聞かせをしているかどうかということでお伺いをしましたが、実際に読み聞かせをされている方は「よくしている」「時々している」を合わせて約6割の方がしているという結果が得られました。問1におきまして読み聞かせが大切だと答えた方は98%でしたが、実際、読み聞かせができていないかどうかということになると約4割の家庭ではあまり読み聞かせがされていないという結果が得られました。

問3におきましては、読み聞かせをしている家庭では「だれが行っていますか」ということで項目を挙げさせていただきましたが、「母」という答えが9割を超える結果となり、次いで「父」が38.1%となっております。

13ページをご覧ください。問4につきましては、読み聞かせができていないと答えられていました約4割の方にお伺いしておりますが、読み聞かせができていない理由、読み聞かせをしていない理由について結果が出ておりますが、もっとも目立った結果としては「読み聞かせをする時間がない」ということになっております。次いで、「自分が本をあまり好きではない」という結果が17.8%とinaっております。

先ほどの問3におきまして、読み聞かせをする人というのが「母」というのが多かったので、問3と問4も回答者が別になりますが、一般的に母親が読み聞かせをすることが多いと考えると、この問4の「読み聞かせをする時間がない」というのは母親が、推測ですが共働きであるとか忙しくなっている現代の状況によって、時間がないということになっているのではないかと思います。この結果の中で、「その他」というのが12.4%と少し高い割合になっている

のでその結果について見てみましたが、「その他」を選んだ人は23人おりました、そのうち理由について記述なしの方は3名いらっしゃいました。その3名を除いて、うち13人につきましては、「子どもが自分で本を読む」「自分で読みたがる」といった記述がありました。また、「兄弟で読んでいるから」や「子どもが読んでと言ったときに読む」などの回答も多くあり、子どもに読書を、5歳にして任せてしまっている傾向にあることが、「その他」の答えから少し分かりました。そのほかの理由としましては、「はじめは聞いているが長くは続かない」「おもしろく読まないといけない」など様々なものがありました。

続きまして問5では「市で行っているおはなし会など読み聞かせを行う行事を知っていますか」ですが、「知っている」と答えられた方は6割の方が行事を知っていることが分かりました。

問6におきましては、知っていると答えた約6割の方に質問しておりますが、「参加したことがありますか」となると、参加したことがあるのが28.9%の方と低く、残りの約7割の方が、行事は知っているが参加していないということが分かりました。

続きまして14ページをご覧ください。ここからは子どもの読書について質問したものです。

問7「あなたのお子様は本を読んでもらうことが好きだと思いますか」となっておりますが「好き」「どちらかという好き」というのは94.9%となり、大半の子どもは本を読んでもらうのが好きであるという結果が分かりました。

問8におきましては、「今後、子どもが進んで本を読むようになるにはどうすればよいと思いますか」と質問しましたが、約7割の保護者が、「家庭で読み聞かせをする」、約6割の保護者が「図書館や書店に一緒に行く」ことが必要だと思っ

ていることが分かりました。

続きまして問9からは、保護者自身の読書についてお伺いしております。問9は「読書は好きですか」ということでお伺いしましたら、「好き」「どちらかという好き」というのが合わせて65.6%と、半数以上の保護者が読書をするのが好きであるということが分かりました。しかし、約3割は読書が「どちらかという嫌い」「嫌い」ということが分かりました。先ほど問8におきまして、「家庭で読み聞かせをする」ということや、「図書館や書店に一緒に行く」ことが今後子どもが進んで本を読むようになるためには重要と考えている保護者が多いにも関わらず、保護者の約3割は読書が好きではないという結果となっております。

問10「月に何冊くらい本を読みますか」ですが、こちらは、月に読む本の冊数については「1～2冊」が43.9%と最も多く、「0冊」も42.6%と同じような割合となっております。

続きまして公共図書館の利用について問11、問12、問13があります。「あなたはお子様と公共図書館にどのくらい行きますか」と質問したところ、図書館

に「行く」と答えた保護者は47.4%、「行かない」と答えた保護者は52.3%と、図書館に行く保護者の数を、「行かない」のほうが上回っております。

問12で、「よく利用する公共図書館はどこですか」ということで聞きましたら、「市立図書館（分館）」のほうが47.6%と「市立図書館（本館）」の利用よりも多いことが分かりました。その他の回答としましては、他市の図書館の利用というのが多くありました。

16ページの間13につきましては、図書館に「行かない」と答えた方に対しておたずねしたのですが、行かない理由としまして、「子どもと一緒にいく時間がない」「本は買って読む」「本は幼稚園・保育園で借りる」という答えが多く見られました。現在共働きの家庭が多くこのような理由になったのではないかと推測されます。

続きまして、子どもの読書環境につきまして、問14で、「今後充実させてほしいと思うものは何ですか」と質問しましたところ、「学校図書室（保育園・幼稚園含む）の本を増やす」こと、「学校図書室（保育園・幼稚園含む）の開室日数・開室時間を増やす」こと、「市立図書館の本を増やす」ことというのが多く見られました。保護者からは、学校図書室、保育園、幼稚園などや市立図書館の蔵書の充実や利用がもっと便利になればいいなという改善を要望されていることが分かりました。

ここまでのアンケート結果のまとめとして、大まかに次の4つのことがあげられます。

まず1つ目が読み聞かせの重要性は保護者の98%の方が認識しておりますが、実際は約4割の家庭では読み聞かせができておりません。その理由として「読み聞かせをする時間がない」がもっとも多くなっております。家庭での読み聞かせが大切であることには変わりはありませんが、保育園、幼稚園等と連携するなどして家庭で本に触れる機会が少ない子どもたちが家庭以外の場でも本と出会うよう環境を整備していく必要があります。

2つ目が図書館等の読み聞かせ行事について保護者の約6割が知っていますが、実際に参加したことがある人は3割弱と低い数値にとどまり、利用に結びついておりません。また4割弱の人は「読み聞かせ行事を知らない」という結果も出ております。今後は、行事等の見直しや実施の周知や図書館自体のPR方法の見直しが必要であると思われまます。

3つ目が、特に小学校におきましては、学校図書室や学校の本の利用が多く、子どもたちにとって学校図書室は読書をする場としても身近な存在であることが分かりました。そのため、学校図書室における読書環境を充実させる必要性は高く、市立図書館との連携などにより、子どもたちがより読書を楽しめるよう働きかけていくことが重要であると思えます。

4点目といたしまして、小学生、中学生、高校生と年齢が上がるにつれて1日のうち本を「全く読まない」や、月の読書冊数が「0冊」といった不読者の割合が

たいへん多くなっておりました。一方、読書が好きと答える割合については、年齢が上がるにつれて減少する傾向がありました。また、公共図書館及び学校図書室に読みたい本がないと思う中高生も多くいることが分かりましたので、今後読書の楽しみを知ってもらえるようにイベントなど、現在実施していないものなども今後考えていってアプローチしていくとともに、蔵書、本の内容等、もっと読みたいと思ってもらえるものの充実に努めることで、中高生に向けた施策に力を入れていく必要があると思われまます。
これでアンケートの報告とさせていただきます。

委員長 アンケート調査の結果をご説明いただきました。
一度に説明いただいたのですが、量が多いので分けて質疑応答したいと思えます。とりあえず忘れないうちに質問したいことがおありになる方はいらっしゃいますか。
まずは、前半の、小中高のアンケートについての質疑応答を先にさせていただきたいと思えます。不明点があるとか確認したいことがあるというような質問がございましたら挙手をお願いします。ないでしょうか。
私から確認ですが、質問ごとに複数回答だったか1つに○だったかということが書かれていなかったように思えますが。100%を超えているものもあるかなと思ったので。

事務局 問いを書いている横に、「1つに○をつけてください」と書いています。

委員長 すみません。上の部分ですね。「あてはまるものすべてに」と「1つに」ということが質問の中に書いてありますね。

事務局 はい。複数回答のものにつきましては、合計が100%にはならないです。

委員長 なっていないということですね。分かりました。

事務局 「1つに○をつけてください」というものにつきましても、小数点以下第2を四捨五入していますので、合計が100を超えてしまう場合もあります。

委員長 これは門真市の子どもや保護者の現状についての調査で、この結果をもとに推進計画の内容に反映させていくという主旨でよろしいんですね。

事務局 はい。

委員長 では、先生方、委員の皆さま、ご覧いただいていたがでしょうか。
ご発言がないようですね。質問でもいいですしご意見でも、何か気づいた点でもいいので、ひと言ずつでもいただいてもよろしいでしょうか。
前半の、小中高の結果についてということで申し上げましたが、17ページのアンケート調査結果のまとめでいいますと、下の2項目が事務局でまとめてく

ださっているアンケートの結果ということですね。「特に小学校においては」という3番目の点と、4つ目の「小・中・高と年齢が上がるにつれて」という、こういうまとめをいただいています、この結果から、もっとこういうことがいえるのではないかと、もう少しこういう点も考えたらいいのではないかと、というようなことが、もしあれば、付け加えていただくということをお願いしたいのですが。この結果がおもしろいとかこのような結果が出ているのは気になるということがございましたら、お願いします。
すみません。勝手に決めさせてもらって、こちらの脊戸先生から何かございませんでしょうか。

委員 予想されていたとおりの結果かなと思いました。やはり小学校ではどうしても学校図書館の利用というのは非常に大きいので、そこに子どもたちに合った読みたい本が、もう少し充実していかないといけないとつくづく思いました。また、読み聞かせをしてもらったか否かという質問がありましたね。高校生が低かったですよね。「読んでもらったことがない」というのが高校生が13.9%ありましたよね。高校生は門真の子は少ない、ある意味、門真の子は少なくとも学校で先生に読んでもらったりしているので、小中学生は「読んでもらったことがない」が低いのかなと思いました。

事務局 補足してよろしいでしょうか。この項目の中で、問6ですが、「その他」を選んでいる方に「その他（）」とつけていたので、そこに記述があったのを拾ったところ、「覚えていない」という答えが結構多かったです。なので「読んでもらったことがない」というところにもそれが影響しているのかもしれないと考えられます。

委員長 脊戸先生、よろしいですか。

委員 はい。

委員長 学校図書室というものがいちばん身近なもので、そこが充実していなければいけないということ。全体の結果の傾向については、予測していたこととそれほどずれていない、まあこういう結果だろうなという感じだったようですけれども。では、乾さん、お願いします。

委員 私も、結果をぱっと見て、こんなもんでしょうねというのは予想できました。先ほど先生が言ったように、高校生というのは忘れている子も多いと思うので、こういう数字で仕方がないのかなと思います。
あとは、スマートフォンやゲーム機などいろいろとやってる子もいるし、パズドラとかね、結構あったみたいなので、そのへんで読書離れが進んでいったのではないかなという気がします。
本の好きな子は何歳になっても読むので、難しいとは思いますが本を読める環境を作っていけたらと思っております。

委員長 ありがとうございます。東田さんお願いします。

委員 5番の子どもの読書環境についてですが、16ページです。学校図書館が読書環境を整えるという意味で、問14「子どもの読書環境で今後、充実させてほしいものは何ですか」というもので、「学校図書館の開室日数や開室時間を増やす」ということが書いてありますが、学校図書館で現在どういう図書活動をされているか知らないのです。毎日開いているとか毎時間開いているという感じではないのですか。定期的にかかれる、今、開室時間とか開室日数を増やすとか書かれているので、昔の図書室のイメージではいつ行っても学校図書室は開いていたというイメージがあるのですが。時間を決めてしておられるのかなあと。子どもたちが自分が行きたいときに自由に行くのではなくて、図書の時間とか、決めてということですか。

委員長 学校図書室ですか。

委員長 学校図書室は、保育園、幼稚園を含めて小中高で。これは幼稚園の保護者が回答している部分になりますから。

委員 そうですか。保育所はたぶん図書室というものを持ってなくて、たぶん、コーナーはありますが。

委員長 学校図書室は学校によっていろいろでしょうけれども、昼休みの時間とか、ある程度決まっている時間に開けているのでは。

委員 決まっている時間しか出入りできないのですか。

委員長 推測を勝手にしていますが、たぶん、この後の、「子ども読書活動推進計画の検証」のところでその話しは出るだろうと思います。今おっしゃっている問14については、後半部分の、幼稚園や保育園の5歳児の保護者に調査した部分ですよ。

委員 そうなのですか。

事務局 はい。

委員長 なので、5歳児をお持ちのお父さんお母さんがどんなふうに思っらっしゃるかということの内容になるんですよ。

委員 はい。学校図書室の活動の現状が分からなかったのでお聞きしたいなと思って。

- 委員長 では、今お聞きしたほうがいいですか。
- 委員 毎日は開いていないのですか。
- 委員 うち（5中）で言ったら、決められているのは週3日の放課後です。図書委員がいるから、その子らがついて。
- 委員 専任の方はなくて、その時間にですか。
- 委員 そうですね。図書委員が、図書担当と。
- 委員 図書委員会というのが子どもの中にあって、図書担当と週に3日放課後開けています。
- 委員 中学校は、学校によって、司書がおられるところもあるし、全然違うと思います。小学校は週1回必ず図書の時間があるって、その時間にはしますし、あとは昼休みに開けておられる学校もありますし、放課後も何回かとか、やはり、教師が絶対つかないと開けられませんので、子どもだけで見なさいと自由には出入りできないことになっているので、どうしても限られた時間しか行けないというのが現状だと思います。
- 委員 はすはな中学にきれいな図書館ができて、見学に行ったことがあります。私が所属している読み聞かせの会で、すごくいい設備を持っているのに、自由に出入りできない、出入り時間が限られているということで、ちょっとここにきて、寝そべてこの本を読みたい子がいるかもしれないけど、行きたいときに行けないんやねという感想をもって帰ってきたので。いい設備があるのにもったいないなと、整えてほしいですねと、ここを見ながら思いました。以上です。
- 委員長 脊戸先生の話もそうですが、やはり、これを見ても、小学生に関しては特に学校図書室がいちばん身近で、その充実度合がかなり影響してくるということが分かりますので、またたぶん後半の推進計画の検証のところでも、もう一度その話が出てくると思います。また具体的にお話しして検討していきたいと思います。学校図書室に関しては、問7「よく読むのはどこの本ですか」とか、問8「よく本を読む場所はどこですか」、それから9ページの間15、問16、10ページの間17のあたりが関係してくると思いますが。問12も、直接図書館のことではないですが、公共図書館に行かない理由の中で、学校で借りるとというのが、突出して小学2年生、5年生で挙がってきていますし、公共図書館より学校図書室をいかに充実させるかということが課題になってくるのかなというふうに思います。学校図書室については、中2と高2で利用の仕方が変わってくるのか、それとも図書室の開室時間とかそういうことが絡んでいるのか、例えば今問12でいいますと「本は学校で借りる」の割合が小2、小5はかなり高いですが、中2、高2

になるとぐっと下がってますので、中学校の図書室、高校の図書室の理ようということについては、中高になりますと子どもの読書のあり方や本との付き合い方が大きく変わってくる時期ではあるので、それが変わるということと、あと、図書室側の問題なのかということと両方を考える必要があるのかなと思ったりもします。このあたり、皆さんも、ご意見を言っていたらいいかなと思います。

では、上甲先生から、ひと言ずついただいてもいいですか。

委員

神村委員もおっしゃったように、予想どおりの結果かなと思います。自分自身の経験からも小学校の頃は図書館へ行って来いと言われてたり授業中の出入りの機会もあったかなと思いますが、中学校になるとなかなか授業中にそういう時間がまず少ないということと、やはり部活動とかを始めるので、まず放課後は行かないですね、中学生は。部活動をしている子はそちらを優先しますし、自分の活動を優先するところがあるので。となると、どうやって読書率を上げるかということを考えていかないと、この情勢は改善されないだろうかなと思います。読んでない理由の中で携帯、スマホの利用時間というのが書いてあって、一方で、電子書籍ですか。スマホなどを使って読む子はいるというところがあるので、そのへん、読む内容がまんがが多いのはいかなものかというのがありますが、そのへんをどう取り組むかが一定の課題になるのかなと思います。あとは、脊戸先生と川崎先生がおっしゃったように、学校で図書室の開放というのは、誰か先生がついてないと、図書室の中の管理の問題がありますので、となってくると、やはり司書を置かないといけないのかなというところも出てくるし、そのへんはまた行政側の課題になるのかなと思います。自分自身を振り返っても中学ではほとんど本は読んでこなかったです。部活動で忙しくて。高校、大学になると、通学で電車に乗っていて、電車の中で読むとか、そういう時間はありました。振り返ってみると自分自身もそうやったかなと思いますので、なかなか他に活動がいっぱいあって余裕の時間があまりない中で、どうやって読書率を上げるかとなると、学校の中で読書の取り組みとかいろいろやっていって、読書の楽しさや有意義さを教えてあげる機会をまず設けるのが大事なかなと思います。実感として小学校時代本を読まない子はまずずっと読まないと思います。先ほど乾さんがおっしゃったように、小学校のときにずっと読む習慣を持っている子は、多少、中、高、大と読む時間が減っても、ずっと読むのではないかと思うので、小さい頃からの読書習慣の形成というのは大きいのではないかと感じます。

委員長

ありがとうございます。では牧園委員。

委員

はい。15ページの問12で、図書館の分館のほうが利用率が高い、本館よりも。蔵書数は本館のほうが多いと思いますが。分館のほうが多いのはどういった傾向なのでしょう。

事務局

たぶん、予測するところでは、質問自体が、「あなたのお子様と公共図書館にどのくらい行きますか」という質問です。たぶん、連れて行かなければいけないと

いうところで、本館には駐車場がなく、分館には駐車場があります。そこがひとつ大きいところだと思います。

委員　そこは私も感じていたのですが、調査した保育園や幼稚園の地域がどうだったのかなど。地域によっても163号線を挟んだ向こう側だと全然。抽出してされたんですか。

事務局　公立は全部です。

委員　幼稚園は2園しかありませんが。

事務局　幼稚園と保育所はすべてで、私立のほうもすべてですが、門真市に住んでいる方のみ対象でしたので、一応すべての園にはアンケートをしております。

委員　そうですか。保育園の回答率がすごく悪かったですね。

委員長　若い子育て世代が多い地域ということではないでしょうか。

事務局　お母さんが若いということですか。

委員長　いいえ。例えば、分館の立地しているところに、若い子育て世代が多いということではないですかね。単純に駐車場の問題ですか。

事務局　分館市民プラザという建物に入っていて、1階になかよし広場というのがあるって、保護者と子どもが行けるような施設です。

委員長　子どもを連れて行きやすい施設ということなんですね。

事務局　はい。

委員長　ありがとうございます。
その点に関してはいいでしょうか。では、山委員

委員　はい。問8で、「よく本を読む場所はどこですか」という中で、市立図書館の割合が低いというのが残念だなと思います。図書館がいちばんいろんな本を置いていると思うので、興味ある方はそちらに行ったほうがいいのではないかなと思うので、ここを改善すれば読書の興味も上がっていくのかなあとと思います。自宅とえば、買ったものを読んでもというイメージですよ。中高生は特に低いので、行く暇もないのかもしれませんが、そのあたりが可能性があるのかなと思います。

委員長　市立図書館に来る人を増やすということ。

委員 そうですね。行っていただいたらいいんじゃないかなと思います。

委員長 行っていただいたらいいとは思いますが、行かないということですね

委員 そうですね。

委員長 それはどこに原因があるのかということでもありますし、逆をいえば、どうせ来ないのであれば、市立図書館が学校にどんどん団体に貸し出すというサポートによって、アクセスしやすいところの本を今後増やすということもあると思います。このアンケートはやはり公共図書館が中心でしておりますので、公共図書館にどのくらい来ているとか、公共図書館の利用がどうかということ、当然知りたくて、そういう設問も多いですが、子どもの足で行けるという、アクセスしやすさということで圧倒的に学校図書館という結果が出ていますので、ここをどう改善していくかというのが次の大きな課題ですよ。

市立図書館に、お子さんが小さいうちに行きや何かで参加していただいて身近に感じていただき、来やすい場所にしていくというようなことであるとか、自分ひとりでアクセスできないと親が連れて来るということになるので、後半のアンケートですが、保護者にどう働きかけるかということですし、アクセスしやすい場所がもうはっきり分かっているのであれば、そこに市立図書館の本を持って行って、団体貸出みたいなことができるのかどうかとか、いろいろな可能性という課題が、考え方はあるのかなというふうに、皆さん全員のご意見を聞きながら思いました。

委員 私は上甲さんとは逆で、本ばかり読んでいました中学校のときに月20冊ぐらい読んでいました。学校図書館でも借りるし、自分で買ったり。実をいうと学校の図書館にも貸出カードを持っていて、今でも、20冊近くは1年間で読んでいます。

この結果の1番目、ここに尽きるという気がします。「読書は好きですか」というところに。傾向的に見れば、もちろん高学年に行くにつれて「好き」が減っていく。保護者のも同じような質問があったので、これは色が違うので見にくいなあと思ったのですが。好きか嫌いかを保護者に聞いていますが

委員長 14ページですね。

委員 色が違うんです。比べたら見にくいので同じにしてもらえればありがたいですが、中2ぐらいはほぼ同じです。保護者も。やっぱり、好きか嫌いかは。このあたりはほとんど変わっていない。

僕は、「好き」「どちらかという好き」がもっと少ないのではないかと感じていました。まだちょっと多いぐらいかなと。なぜそう思ったかという、私学の面接練習のときに、僕はいつも聞きます。「最近読んだ本の中でいちばん印象に残っている本は何ですか」って聞くのです。全然誰も答えられない。そのあとで「教科書で読んだものでもいいやんか。面接で聞かれたらそれを答えや」とかい

ろいろ言うけれど、出てくるものはまんがばかり。だからもっと「好き」は少ないんじゃないかという認識が僕の中にはあります。
中学になって、本を読まないというのは、やっぱり図書室に行かないですよ。小学校の場合は強制的にその時間がある。中学校はない。だから足を運ばない。図書室に。それよりクラブです。とにかく放課後はクラブです。だから、本を読むために足を運ばないというのが一番だと思います。逆に足を運ばなくてもいい、運ばなくても読める本、先ほども電子書籍だったら読もうかなという、そんなところもあるかなという感じです。学校図書館に読みたい本がないというけど、行ったら、いろいろあるんです。最近のライトノベルもすごく多いです。うちの中学校でも。子どもは読めばいつもテレビやアニメでやっているあの元本が全部ライトノベルであるんですよ。だから読みたい本はあるはずですよ。もっといえば、ここはあまりないですよ。門真市の図書館にライトノベルの新しいものがない。あれを入れてくれたらありがたいと思います。まず足を運ばない。運ばなくてもいいのは読む。その傾向がすごく出ているのではないかなと思います。

- 委員長 ありがとうございます。ではこのアンケートの全体について補足なり質問なりある方はいらっしゃいませんか。
- 委員 たぶん、グラフね、保護者のところとそれ以外は違うんですよ、色がね。まとめ方が違うのかなという気がしたのですが、これは統一してもらったほうがありがたいです。
- 事務局 分かりました。ありがとうございます。
- 委員 このアンケート結果は、ここの会だけですか。
- 事務局 今のところここの会だけです。今日初めてほかの方に見ていただいたところです。
- 委員 皆さんが見られたら、学校関係や保育園の関係なども見られたら、とても興味深いのではないかなと思います。
- 事務局 また校長会などでも、アンケートのお礼と一緒にご報告はさせていただこうと思っております。
- 委員 図書館としてこれを言うてはおしまいなんです、建物自体に魅力がないからあまり足を運んでも、見ても、閲覧する場所が全然なくて。
- 委員 幼児はまだいいのですが、小中学生、高校生などは特に。学習室が図書館にあっいていいのかどうか。大体はありますよね。そういうところがないので、足が運びにくいので。
- 委員 今度、図書館を設計する計画の中に、そういう部屋が確保されているのかどうか

興味があります。

事務局 そういう施設面も、第2次の計画でも盛り込んでいけたらと思います。

委員 もう見られたこと、行かれたことはありますか。あまり行っても、私たちも行っても早く帰りたいって。個人的な感想ですが。もう少し魅力的な空間を用意されたいら行きたい子も出てくるのかなと。

事務局 もうちょっとゆとりのあるスペースを作れたらと思います。

委員 そうです。閲覧する場所とか、何か調べ物ができるスペースとかあればいいのかなと思います。

委員 そういう意味ではプラザのほうが、自習室や読む空間とか、テーブルは1階にもありますね。

事務局 ありますね。

委員長 どちらの調査でも、分館のほうがちょっと利用が。そういうところが影響している可能性が。

委員 分館は、1階に喫茶コーナーもあったりしてますね。

委員長 くつろげるということです。

事務局 見てもらったら分かると思いますが、絶対的なスペースがないので、何かを置けば、もう、書架とブラウジングコーナーに行ってもらったら分かると思いますが、書架と利用者が新聞を読んでいる間がほとんどスペースが、それでも無理をして置かなければいけない状態になっている、そういう現状です。

委員 本当に選びにくくて。私も、読み聞かせをされていて、選ばないと探さないといけないのに、ちょっと必要なものを引っ張り出したら、図書館で見ないでうちに持って帰ります。

館長 すみません。5年後に新しい図書館ができる予定でございますので、そのオープンに向けてまた皆さんの今のようなご意見をいただいて反映していきたいと思っておりますので、またご意見をよろしくお願いいたします。

委員長 新しく図書館の計画があるということをごらんと聞いてますので、現状、ここは難しいにしても、期待をして夢を膨らませることはできると思うので、それはぜひ市民の皆さまでいい図書館を作られたらいいと思います。調べ物、学習の部屋ということについては、図書館業界でも考え方が変わってき

ていて、そういうもの作らない傾向というのがつい最近まではあったと思います。なので、結局、宿題をしに来る人がいっぱいいて、読書を楽しんだり本を閲覧する人がくつろげないというようなこともあるので、どんな図書館を求めるのかとか、どんな人にどんなサービスを提供するのかという図書館全体のビジョンとも絡んでくると思いますから、そのあたりは、また今後検討されたらいいのかなと思います。

ただ、問11「どんなときに図書館を利用しますか」というので見ると、中2は「調べ物をするとき」というのが増えている結果です。これは高校生になると宿題などの勉強はしにきているみたいに見えます。宿題や調べ物というものが3割ぐらいはあるのかなと思ったりします。こういう利用をどうみるかということと関係してくるのかなと思います。

私が気になったのは、問2ですが、小学5年生を見ると、不読率、いわゆる全然読まない層というのが小5はいちばん少ないですね。読書率が小5までは上がっています。次の3ページでみると、問4で、本は全然読まない不読者にその理由を聞いたアンケートを見ると、全体の傾向としては非常に似ていますが、小5だけは動き方が違うなと思ひまして、それが気になっています。小5の場合、読まない人が13%です。その人たちですから、母数が45人なので統計的に意味があるかどうかは分かりませんが、「読みたいと思わない」が突出しています。本当にこの13%は興味がない層です。これを放っておくともうそのまま一生本を読まないで生きていく人たちののかなと思うので、小5のあたりですごく読む子が増えている中で、読まない層というのは本当に読んでいない。その子たちが答えているもののトップで、「読みたいと思わない」。あともうひとつが、小5だけが高いです。図書館に「行けない」というのが。図書館に「行けない」というのはそんなに多くはないですが、その45人のうちの11%が、ほかの、小2や中2や高2と比べてもちょっと高いので、やっぱりアクセスしやすさとか、保護者が連れて行ってくれるかどうか、小5あたりというのは自分でも動き始めるので親の手から離れる頃ですが、その頃に、図書館にアクセスできないと思っている子がちょっとはいるというあたりが、心配ではあるけれども、もしかすると可能性がすごくあるのかもしれないと思います。小5あたりで不読の子というのはそのまま中高、読まない層になってしまう可能性が高いですが、そのあたりの傾向を見て、アプローチしていくことでちょっと変わるのかもしれないかなと思います。

皆さま割合予想していたような傾向の結果が出てきているということは確認できましたし、課題も見えてきているかと思ひます。

もうひとつ案件がありますので、また、とりあえずこのアンケートについては確認をしたということで終えていきたいと思ひます。

次に、第1次計画の検証について、案件に移りたいと思ひます。

こちらの報告を受けたあとで、また両方併せてのご意見や質問が出てくるかと思ひますので、先に事務局に説明していただきたいと思ひます。

では、第1次計画の検証について説明をお願いいたします。

事務局 では、私から説明させていただきます。資料3をご覧ください。「第1次門真市

子ども読書活動推進計画の検証」ということで、1枚目、2枚目が、第1次推進計画の「第2章 子ども読書活動推進への取り組み」から抜粋しております。それを見やすい形で1枚ものの裏表で抜き出しております。見ていただくのが3枚目、「第1次計画期間における取り組み」という、1ページと書いているところから見てください。そちらの「第1次計画の基本方針」として、3点挙げております。この企画を推進する機関というところで、家庭、地域の身近な施設、図書館、学校等が挙がっております。順番に、「推進への取り組み」ということで、家庭、地域の身近な施設というところで、地域の身近な施設としてまず見ていきたいと思っております。この検証方法ですが、作業部会の各委員さんに依頼いたしまして、昨年11月から今年の1月にかけて第1次計画の第2章の「推進への取り組み」というところの項目を調査項目としてそれぞれの所属の施設等に対して聞き取り調査を行いました。

「家庭・地域の身近な施設」ということで、

①家庭における読み聞かせや、子どもが読書の時間をもつよう、家庭で習慣づけることの大切さを広く知らせます。

この、地域の身近な施設ですが、市民交流会館、公民館、文化会館、放課後児童クラブ、リサイクルプラザ、南部市民センターを第1次計画に挙げております。市民交流会館、文化会館におきましては、イベントの中で読み聞かせをしています。放課後児童クラブにおいては、読み聞かせを小学校14校中、6校で実施しております。

②身近な施設の蔵書を増やすなど、読書環境の推進に努めます。

市民交流会館におきましては、1400冊程度の図書を所蔵しております。文化会館では寄贈により蔵書が充実し、また読書コーナーがあり、貸し出しなども行っております。放課後児童クラブでは、全校で蔵書を持っていますが、読書コーナーがあるのは5校です。リサイクルプラザは、カウンターを備えた図書室が完備されています。しかし現在は蔵書が増えず利用もない状況であり、依頼があったときのみ開室するような状況です。南部市民センターも図書室がありますが、実態は自習室で、蔵書はありますが、不定期でリサイクル本を入れる程度であり、現在、書架のスペースは減少しております。

③各施設、団体の特性を活かしながら、子どもが本と気軽に出会える場となるよう努め、周知を図ります。

放課後児童クラブにおきましては、本の紹介をしているところが2校あります。市立図書館の団体貸出を利用しているところも2校あります。

④乳幼児健診時等の機会を利用し、読書推進を図るため、図書館や身近な施設の広報と啓発に努めます。

というところですが、図書館の広報や啓発は行っていますが、他の施設につきましても広くPRが行えているとはいえないような状況です。

以上、地域の身近な施設です。

続きまして「図書館」ですが、事務局ですので課題なども交えながら説明させていただきますと思います。

①市民全域に図書館サービスを広めるため、あらゆる機会を利用してPRに努めます。

これにつきましては「広報かどま」やホームページ、民間の情報誌等への掲載、FMハナコへの情報提供、ブックスタートの際に図書館の紹介、利用案内などを行っています。また分館におきましては、分館近辺の幼稚園、保育園でのPR活動、自治会の掲示板などにチラシ、ポスター掲示など幅広くPR活動を努めています。

というところで現在行っているPR活動を継続させて充実するとともに、公立幼稚園の減少などもあります。PR活動を私立の保育園、幼稚園などにも拡げていくなど、より多くの子どもと保護者に図書館サービスを知ってもらえるよう努めていかなければならないと考えております。

②保護者と子どもがゆっくりくつろいで絵本を楽しめるスペースを整備し、子ども用の本の充実を図ります。

というところですが、カーペットコーナーや子ども用テーブルなど児童コーナーは以前に改修されて書架などの入れ替えも行っておりますので、そんなに古いという印象はありませんが、現在の図書館施設ではやはりスペースの問題があり十分とはいえません。ですので、新図書館施設におきましては、ゆっくりくつろげて楽しめるスペースや、読み聞かせなどの子ども向け行事の場の確保が必要だと考えています。また、新鮮な資料の充実にも努めていくことは当然のことだと思っております。

③中高生向けのコーナーを設け、年齢や発達段階に応じた図書の充実を図ります。

というところですが、1次計画の作成とほぼ同じ時期、平成20年に、ティーンズコーナーを一般書コーナーに設置しました。その後、平成23年にティーンズ文庫を移設して、拡張を行いました。これらヤングアダルト向けの資料の充実を図り、コーナーの存在をPRしていく必要があると思っております。ティーンズコーナー以外にもヤングアダルト向けのイベントなどの実施により、読書に親しむ機会の提供が必要でありますし、他市の取り組み内容などの情報収集をして検討していかなければならないと思っております。

④ボランティアの協力を得て、おはなしの会やお楽しみ会などの行事を開催し、読み聞かせを通じて子どもに本への親しみをもってもらおうよう、行事の充実にも努めます。

というところですが、これにつきましては新たに「赤ちゃんふれあい絵本タイム」「英語で楽しむおはなし会」などを始め、おたのしみ会を実施しました。今後も各種おはなし会などの充実にも努めてまいります。

⑤ボランティア、家庭・地域文庫を運営している方が活動しやすいように、団体貸出、活動の場の提供及び研修機会の援助をします。

というところですが、ブックスタートや出張おはなし会などの他の課と連携して継続して活動できる場を提供しています。そして、スキルアップのための研修の開催や情報提供なども行っています。

⑥子どもの本に興味や関心のある人を対象に、子どもと本を結びつける講座を開催し、より多くの方が子どもの読書に理解をもち、読書活動の推進につながるように努めます。

これにつきましては、子どもの本に関する各種講座を開催いたしました。これについても引き続き読み聞かせをはじめ、子どもの読書のための各種講座の充実に努めてまいります。

⑦外国人の子どもが読書に親しめるよう、図書館サービスの充実に努めます。

ですが、平成24年に、子どもの英語コーナー、これはソロプチミストの寄贈で約850点いただいたのですが、そのコーナーを設置しました。本来は外国人の子どものために設置されたものではなかったのですが、英語版と日本語版の同じ図書を収集したり、まんがの英語版などもありますので、外国人の子どもさんの利用にも役に立つものとなっております。これからは、英語の本の充実に加えて、その他の言語についても資料提供方法なども検討していきたいと思えます。

⑧障がいのある子どもが読書に親しめるよう、図書館サービスの充実に努めます。

これにつきましては、児童書の大活字本なども収集しました。今後もその充実に努めるほか、障がいのある子どもが利用しやすい資料や施設の充実について検討する必要があると思えます。

⑨乳幼児健診時等に保護者への働きかけを図り、絵本の読み聞かせの大切さを広め、読書推進に努めます。

ですが、これにつきましては、ブックスタート事業を開始いたしました。そしてその推進計画策定後に始めた、分館でまず「絵本ふれあいタイム」というのを行っておりました。その後本館で「赤ちゃん絵本タイム」というのをしておりました。それをフォローアップとして名称を統一しまして「赤ちゃんふれあい絵本タイム」として新たに始めました。ブックスタート事業等につきましても今後とも継続して実施させ、充実させていきたいと考えています。

⑩幼稚園、保育園、学校等及び子ども読書関連機関・施設との連携・協力を図り、読書の推進に努めます。

ですけれども、学校訪問や図書館見学、調べ学習などの受け入れ、そして市内保育園、幼稚園への出前講演会や出張おはなし会などを実施いたしました。団

体貸出では選書の効率を図って、学級文庫用にパック詰め図書を準備しました。しかし、物流などの問題もあり、利用が多いとはいええない状況にあります。

⑩積極的に研修等の機会を活用して、図書館司書及び職員の資質向上に努めます。

これにつきましては、府立図書館や大阪公共図書館協会主催の児童サービスの研修等に参加いたしました。今後も積極的に研修に参加して、より一層、自己研さんに努めて資質の向上を図ってまいりたいと考えております。

以上、「図書館」です。

次に、「学校等」ですが、門真市内の公立保育園の3園、幼稚園の2園、小学校14校、中学校6校を取り上げております。

①図書の充実を図り、本に親しめる環境づくりに努めます。

保育園、幼稚園ですが、出版社の目録や選定リストなどを参考にして蔵書の充実を図っています。すべての施設で、園児、保護者に図書の貸し出しを行っております。小中学校ですが、各学校におきまして、配当予算に応じて学校で選書し、蔵書の増加を図っております。学校によっては、20分休憩や昼休みに図書室の開放及び図書の貸し出しを行っております。学校図書館等につきましては、資料の最終ページを見ていただきましたら、資料が添付されていますので、そちらも参照していただけたらと思います。図書委員や生徒や図書担当の先生方により、交代で学校図書館の対応にあたっております。

小中学校ですが、学級文庫用の充実と活用ということで、古くなった廃棄対象となった本の中から、児童、生徒のニーズを踏まえて学級文庫にまわしているケースなどもあります。また、各家庭から持ち寄った本や市民からの寄付という形での充実もあります。

②地域ボランティアなど外部人材の活用により読書環境の充実に努めます。

ですが、市立保育園、幼稚園全園でボランティア、地域支援ボランティアなどによる絵本の読み聞かせを実施しております。小中学校ですが、小学校ではほとんどの学校で読み聞かせを行っていますが、朝学習の時間などを活用して、保護者やボランティアが中心となり活動しております。

③多様な読書活動に対応するため、設備等の整備に努めます。

保育園、幼稚園では、全園で絵本コーナーを設置しております。小学校では学校図書館活性化事業として、児童文学評論家を招聘し、小学校2校で図書館のリニューアルを行いました。中学校の新設においても、1校、児童評論家のプロデュースによる図書館が設置されました。またモデル的に、小学校1校、中学校1校でバーコードシステムを導入しております。

④小・中学校において、「読書」を学校教育活動全体の中に位置づけ、「読書の時間」を設けるなど、読書活動の推進に努めます。

こちらは、読書の時間の実施ということで、小中学校のみですが、小学校においては週に1時間、国語の授業として「読書の時間」を確保しています。また朝読書については、多くの小学校で取り組み、中学校でも取り組んでいるところもあります。また、「マイブック」の取り組みや、たくさん読書をした子への表彰など、工夫して取り組んでいるところもあります。

⑤小・中学校の図書室の運営について、中心的な役割を担う司書教諭の有効活用と司書教諭資格者の育成に努めます。

小中学校ですが、司書教諭の有効活用と司書教諭の有資格者の育成ということで、司書教諭の免許を有する教員を基本に、図書担当教諭を任命して、図書室整備に取り組みました。また、25年度からですが、学校司書を2名、小学校3校、中学校1校に配置し、読書環境の充実に力を入れております。26年度については3人6校で、27年度は4名8校となる予定です。

⑥各学校・園と、市立図書館との連携・協力を努めます。

保育園、幼稚園は、図書館のボランティアからの出前講演会や出張おはなし会を実施しております。小中学校では、小学校では図書館職員による学校訪問や図書館見学などを実施しております。また中学校では図書館での職業体験なども実施しております。

以上、取り組み内容のご報告ですが、推進計画としてトータルとして見てみますと、第1次計画の基本方針として、

1. 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の整備、充実
2. 家庭、地域、図書館、学校等を通じた社会全体での取り組みの推進
3. 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

が挙げられておりますが、第1次計画において、読書関連施設として地域における読書ができる可能性のある施設として網羅的に施設名を挙げました。放課後児童クラブをはじめ、市民交流会館、文化会館等においては、読み聞かせなどを行っていますが、実質的になくなっている、留守家庭児童会やふれあい活動、そして、くすのき園、さつき園や、施設の存在意義、性格が変わってきているような施設があります。そのような施設につきましては、第2次計画において読書関連施設として挙げるべきなのかどうなのか、見直しを検討すべきではないかと考えています。

図書館におきましては、平成22年の12月より、健康増進課や当時の子ども課と連携して、ブックスタート事業を始めることができました。またそのフォローアップとしての「赤ちゃんふれあい絵本タイム」が好評であり、赤ちゃんとお母さんたちとの交流の場ともなっております。このように、乳幼児に対するサービスは進展して浸透してきていると思いますが、今後におきましても基本的な取り組みとして継承し、読書活動を進めていかなければならないと考え

ております。

また、門真市子ども読書活動推進計画は、おおむね18歳までを対象としておりますので、中高生やヤングアダルトといわれる世代の読書環境というものが課題になってくるのではないかと考えております。

幼稚園、保育園、小中学校の学校等において「森の図書館」のように、新しくできた図書館や整備された速見小学校、それから、門真みらい小学校、砂子小学校など、読書環境、設備の整備が進められているところもあります。朝読書や読み聞かせなどの取り組みも進められています。また、平成25年度から学校司書の配置が始まり、少しずつではありますが増員されてきており、読書活動の推進に向けた環境が整えられてきていると思います。しかし、子どもたちに提供されるべき資料については、図書標準を達成しているところは少なく、新鮮な図書資料が潤沢に揃えられているとは言えない状況であります。

こうして見てみますと、子どもの読書環境の整備に向けた取り組みは進められてきております。しかし子どもの自主的な読書が進んでいるかと言うと、アンケート調査でも見られますように、進んでいるとは言い難いような状況でもあります。そのようなところから、第1次計画の第3章に「子どもの読書活動への推進に向けて」で取り上げられていますように、今後の推進に向けましては基本目標をより一層連携、協力して取り組んでいくことが今後もやはり大切であるというふうに感じられました。

以上です。

委員長

ありがとうございます。

前回の「子ども読書活動推進計画」の検証ということで、聞き取りを各箇所に行っていただいた結果ということです。

時間もありませんので、全体的なことで。また先ほどのアンケートとの絡みでもいろいろご意見がおありかと思っておりますので、ざっくばらんにといたしますか、口々にご発言いただけたらありがたいです。

先ほど東田さんからご確認がありました、学校図書室関連の具体的なことが少し見えてきていまして、そのあたりも含めてご意見はどうでしょうか。

委員

この調査はいつされたのか分かりませんが、砂子小ですが、放課後に開放しています。水曜日と木曜日ですが。

事務局

すみません。水曜日と木曜日に開放されていますか。

委員

放課後だけです。結局、小学生では圧倒的に学校の図書室と教室での授業というのが多いのだから、やはり学校の図書の充実が何よりも大事と私は思っています、それには蔵書数があまりにも少ないですし、専門の学校の司書教諭はおりますが、司書教諭が専任で図書に関わっているわけではまったくなく、普通の担任として1日授業をして全部やって、図書の整備といえば職員作業で、全職員で夏休みにするとかしかできなくて、開ける時間も、休み時間になると、そ

れにつく先生が必要になると本当に困難なので、子どものためにはやはり学校に1人ずつちゃんと図書司書というか専任の方が、ボランティアでもいいのでいてくださって、休み時間や放課後に毎日決まった時間に開けられるというのは本当の理想だと思います。ということをつくづく思いますし、市民が使える場所でどうのこうのとかありますが、それは一般の大人のことで、子どもに関してはやはり乳幼児が集まる、それこそ、市民プラザの1階あたりにもっと充実した図書コーナーを子どもたちのためとか、子どもや赤ちゃんが集まったり保護者が集まられる機会をとらえていろいろな働きかけをするほうが、とても有効ではないかと思います。

なので、第1次計画のときの、地域も大事だけど、学校や保育園や幼稚園など子どもが行けるところを充実させること、そして図書館のきれいなのができたら、一般の市民はそういうのが使えるので。環境というのはとても大事だなと思います。

委員長 ありがとうございます。学校図書館の充実が重要だというお話でした。確認ですが、聞き取り調査自体はこの年度末あたりでされたのでしょうか。

事務局 この調査自体は比較的最近していただいた調査だと伺っています。

委員長 アンケート調査と同時進行ぐらいで行ったのでしょうか。

事務局 よりも最近です。

委員長 最近に行ったということだそうです。担当者への聞き取りという形での調査ですよね。

事務局 作業部会の委員さんに学校に問い合わせしていただいたのですが、学校の担当者に問い合わせしていると思います。

委員 毎日ではないからと思ったからかもしれませんね。1日ぐらいでは放課後とは入れないと。

委員長 どうだったのか分かりませんが。多少違っている部分はあるかもしれませんね。

次長 すみません。学校の司書が6校に配置されていますが、情報として追加で、門真小学校、大和田小学校、四宮小学校、速見小学校、みらい小学校、はすはな中学校に学校司書が配置されています。

追加でご報告させていただきます。

委員長 配置されている学校ですね。これは25年度26年度と、ここ最近のことですが、今後これは全市に広げていく方向なのですか。

委員 27年度は1名増です。もっと増やしたいですが、一気にできませんので。予算が絡むので。4名で8校に配置をします。

委員長 ということは、2校ずつ分担されて。

委員 1人で2つの学校を見て。1週間に2校で勤務していただいて。長時間ではありませんが。1回4時間やったかな、で回しております。

委員長 ということはパートタイムという形で、2校をみてくださっている方がいらっしゃるということですね。

委員 ゆくゆくは全校に配置したいと思います。

委員長 ということだそうです。でしたら、20年に策定されたこれからいくと相当に進捗しているというか、変化しているところですね。あと平成20年にティーンズコーナーの充実も最初の計画から非常に進捗しているところに思われますし、先ほど言っていたブックスタートのあとのフォローアップの実施とか、改善といいますか、取り組みが進んでいる部分もあるかなと思います。それでは先ほどご発言がありました東田さん、どうぞ。

委員 すみません。図書館で赤ちゃんへの読み聞かせをしています。ブックスタートとそのときに、赤ちゃんはもちろん楽しむのですが、一緒に来る親がすごく楽しまれています。親が選択して、情報を見て来られるから、これは子ども読書活動推進の会議ですが、大人が行ってみたいと思わないと、小さい子どもは図書館に親しめないで、大人が行っても心地いいし、大人が行ってみたいという図書館の何か、子ども向けばかりではなく大人にとっても心地いいということを重視されないと、小さい子どもは行く習慣がつかないのではないかと、いつも思います。

委員長 先ほど脊戸先生から学校の立場のご意見がありました。東田さんから、例えば、5番ですね。「ボランティア、家庭・地域文庫をしている方の活動しやすいような援助をします」という項目がありますが、それについて何か実感のあるご意見があればお願いします。

委員 またボランティア会議があるので、そのときに言おうかなと思って用意はしています。

委員長 そうですか。ここでも何か。

委員 いいです。長くなるので。

この前、私たちの会を熱心に引っ張って下さる方がいて、東淀川の絵本祭りに行ってきたらしく、そこは区役所と民間の本屋さんとJ P I C（出版文化産業振興財団）という読書推進をしているN P Oが協働で、全区民に向けて絵本の普及活動をしておられて、絵本祭りというので、ものすごく保護者が子どもを連れて行って、作家の方も読み聞かせに来られていて、若い人がどんどん読み聞かせボランティアに登録していかれて、どこにでも読み聞かせのボランティアがいます。門真の場合はどんどん減って行って、人を確保するのに、皆高齢になっているし若い人の確保が大変ですが、全員がされるわけではないけれども、それに登録している人がどこにでもいるという環境を作っておられて、そういうのが参考になるかなと思って資料をいただきました。そういう取り組み方もあるのだかなと思って、図書館は人も少ない中ですが、そのように民間と力を合わせるといったやり方も、橋下さんがやられた公募の区長さんがやっておられました。

委員長 図書館の人員体制も少ないということであれば、ますますボランティアの必要性はあるでしょうし、ボランティアの継続的な養成ということでしょうかね。

委員 どんどん育っていらっしゃるのです。

委員長 若い人を増やしたいということですね。

委員 そうです。

委員長 そこが切実なところかと思えます。ボランティアが活動しやすい場ということももちろんですが、継続して養成、支援していくということ、図書館の力だけではなくて、いろいろなところも含めてやっておられたということですね。

委員 大変だと思えます。東淀川区では、他に本屋さんの力もすごかったと思えます。

委員長 いろいろなやり方があると思いますが、是非そのあたりのこともということですね。もしボランティアが増えれば幼稚園や保育園、小学校、中学校へのサービスにもつながると思えますので、それはとても重要なご意見だなと思えます。そのほか、皆さま、この検証の内容についてご意見、質問等ないでしょうか。

事務局 補足してよろしいでしょうか。
府立高校についてですが、今回の検証において府立高校は挙がっていませんが、大阪府にも子ども読書活動推進計画がありまして、府立高校はそちらのほうが範疇になりますので今回はアンケートによる調査にとどめております。ただ、門真西高等学校に学校司書がおられますので、その方にはいろいろお話しはさせてもらっていますが、その中で、やはり、司書の方が来てから図書室をまる一日開けることができた、そのことによって貸し出しが倍増したりしておりますので、学校司書の存在というのは大きいと思えます。

委員長 先ほどのアンケート結果では中学校、高校では学校の利用は減っていますが、最後の読書環境の項を見ますと、やはり中学校の取り組みが、学校によって差がある感じに、実態はどうか細かいところまで分かりませんが、見えます。読み聞かせや図書室開放など、貸し出しなどはしていないのかどうか、答えた方のご判断がどうなのか分かりませんが、×がついている学校もありますので、このアンケート結果と絡めますと、やはり、小学校、中学校の図書室の充実、特に中学校に頑張してほしいという感じがします。

事務局 事情のある中学校もあるみたいで、できてないところもあるようです。

委員長 このアンケート結果を見ますと、例えば、どんな事業が求められているのかとかどういうアプローチができるか、いろいろ参考になると思うので、そのあたりも細かく見ながら、次の計画に反映させていけたらいいのかなと思えます。これで「第1次子ども読書推進計画の検証」がざっとありまして、アンケート

調査は、また、自由記述のところは後日ということですのでけれども、いちおう大方の傾向が分かりまして、今日は2件の案件ということでありましたので、終了ということですのでよろしいでしょうか。

では、重要な案件2件が終わりまして、その他ですが、何かございましたらお願いいたします。

館長

説明させていただきます。資料4と資料5をお願いいたします。

資料5につきましては、「第2次門真市子ども読書活動推進計画の構成（案）」を挙げておりまして、①から⑦となっております。

①第2次門真市子ども読書活動推進計画の策定にあたって

②子どもの読書活動を取り巻く状況と課題

③子どもの読書活動に関するアンケートの調査の結果、分析

④基本理念

⑤基本目標

⑥基本計画

⑦計画の実現に向けて

となっております、構成（案）と考えております。

次に資料4をご覧ください。今後の審議会のスケジュールでございます。

2段目のところに、審議会がございまして、それをご覧ください。5月の第3回審議会におきまして、推進計画の概要、基本理念、基本目標について検討、審議を行い、アンケート結果を踏まえ、計画のキーワードやキャッチフレーズにつきまして、皆様のご意見などお伺いしたいと思っております。

8月の第4回審議会におきまして、第3回で確認した理念、方向性に沿った具体策作りの審議を行います。

10月の第5回審議会におきましては、11月に実施しますパブリックコメントに向けて、第4回の修正計画素案の審議を行います。

平成28年1月の第6回審議会におきましては、パブリックコメントの結果報告と、計画（案）について最終確認いたします。

以上でございます。

委員長

はい。まず1点ですが、資料5で、第2次門真市子ども活動推進計画、次に作る読書推進計画の目次案というか、内容の構成ですよね。

館長 そうです。大きな柱です。

委員長 その案を、ご提示いただきました。これは、具体的にはどうなりますか。

館長 中身はこれからになります。

委員長 検討しなくてもいいんですよ。

館長 これは今後審議会におきまして検討していきます。

委員長 ですね。これは案ということでご提示いただきました。今後これに沿って審議をしていくということです。

それからもう1点はスケジュールの説明です。ご質問等ないでしょうか。

そうしますと、今回はこの会は5月下旬の予定ということですね。

館長 はい。また日程調整をさせていただきますので、ご連絡させていただきます。

委員長 では、ほかに委員の方々から。よろしいですか。

少し予定より長引いてしまいましたが、以上で本日の審議を終了いたします。

ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。